



組 番 氏 名

図書委員の赤木さんたちは、全校のみんなにもっとたくさん本を読んでもらいたいと考え、昨年の委員会の活動を見直すことにしました。

そのために、昨年に取り組んだ活動を書き出し、昨年一年間に百冊以上借りた人の人数や、全校児童に対して行ったアンケートの結果の一部を資料として用意したりしました。

資料を見ているうちに、赤木さんと春山さんは、これまでの活動だけでは、全校のみんなの読書量はふえないのではないかと考えるようになりました。

【資料1】 昨年の図書委員会の活動

- ① 朝、昼休み、放課後に当番が図書の貸し出しをする。
- ② 借りた本の数を「読書カード」に記録していき、3月に100冊以上本を借りた人に賞状をわたす。
- ③ 図書委員がおすすめる本を図書室のけいじ板を使ってしょうかいする。
- ④ 週に一度、図書室で当番が読み聞かせをする。

【資料2】 昨年100冊以上本を借りた人数

| | |
|-------|--------------|
| 1、2年生 | 98人 (129人中) |
| 3、4年生 | 76人 (128人中) |
| 5、6年生 | 52人 (126人中) |
| 合計 | 226人 (383人中) |

【資料3】 好きな本の種類について (全校児童調べ)

| 種類 学年 | 絵本 | 物語 | 自然 | 歴史 | その他 | 合計 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | (人) | (人) | (人) | (人) | (人) | (人) |
| 1、2年生 | 63 | 38 | 21 | 3 | 4 | 129 |
| 3、4年生 | 18 | 51 | 40 | 7 | 12 | 128 |
| 5、6年生 | 9 | 50 | 19 | 22 | 26 | 126 |
| 合計 | 90 | 139 | 80 | 32 | 42 | 383 |

【資料4】 図書委員会の活動について (全校児童調べ)

- ① 朝、昼休み、放課後の図書の貸し出し
 - ・ 朝はこんでいるが、昼休みや放課後に借りることができるので助かる。… ア
 - ・ 委員会などがあって借りに行けなくなった。
 - ・ どの本がおもしろいのか分からずに、借りられずに終わることがある。… イ

- ② 100冊以上借りた人への賞状わたし
 - ・ 100冊を目指してたくさん借りている。
 - ・ 賞状をもらえてうれしかった。… ウ
 - ・ 厚い本だと100冊は借りられない。… エ

- ③ けいじ板での本のしょうかい
 - ・ しょうかい文は読んでいて楽しい。いろいろな本があることが分かる。
 - ・ しょうかいがもっとくわしい方がいい。… オ
 - ・ しょうかいされた本が貸し出されていることが多い。… カ

- ④ 図書委員会による読み聞かせ
 - ・ いろいろな読み聞かせがあって楽しい。… キ
 - ・ 読み聞かせの本を自分でも借りて読みたい。
 - ・ 図書室でしている読み聞かせは、委員会の活動などと重なって聞きに行けない。… ク

その結果、二人はそれぞれ次のような活動案を考えました。

赤木さんの案

「読書マラソンカード」

《方法》
みんなから、読んだ本のページ数をカードに記録してもらい、「一年間の合計が多い人に賞状をわたす。」

読書マラソンカード

| 年 組 番 氏 名 | 本の名前 | ページ | 合計 |
|-----------|------|-----|----|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |

春山さんの案

「ブックトーク」

《方法》
「動物」などテーマを決めて、それに合う何冊かの本をしょうかいする。物語だけでなく、歴史、科学などいろいろな種類の本を合わせてしょうかいできる。



図書委員会では、この二つの案のうち、どちらか一つを新しい活動として取り組むことにしました。次の話し合いの様子を読んで、問いに答えましょう。

司会

みなさんは、赤木さんの案と春山さんの案のどちらがよいと思いますか。

夏目さん

ぼくは春山さんの「ブックトーク」に賛成です。ぼくは前に友達にしようかいしてもらった本を読ん
でみたら、とてもおもしろかったという体験があります。それに【資料4】の意見にあるように、けい
じ板ではできなかったくわしいしようかいも、本を見せながらできるのでよいと思います。

春山さん

昨年のことを思い出してみると、読み聞かせを楽しんでいる人がたくさんいたように思います。ブッ
クトークは、読み聞かせのように、図書委員が話をつたえるよさがあります。もし、本のページを見せ
ながら話し方を工夫すれば、きっと多くの人がその本のおもしろさを分かってくれると思います。

青野さん

わたしは赤木さんの「読書マラソンカード」に賛成です。【資料4】のように、厚い本を読んだり、
本を借りに行けなかったりして、百冊借りることがむずかしい人もいます。ページ数を記録する活動は、
そのような人たちも参加できる取組だと思います。

赤木さん

賞状をもらえてうれしかったという声もあります。この活動をすれば、賞状をもらう人はふえます。
賞状をきっかけにして、本を読むことにきょうみをもってもらえます。

黒井さん

ぼくは「ブックトーク」に反対です。【資料4】でも似たような意見があったように、「ブックトーク」
で本をしようかいしても、図書室には一冊くらいしかないのです、すぐに借りることができません。それ
に、図書室にこない人には、せっかく「ブックトーク」をしても本のしようかいはできません。

春山さん

「ブックトーク」では、重ならないようにいろいろな本を用意するようにします。また、希望者には、
その本の貸し出し予約ができるようにすればいいと思います。また、「ブックトーク」は図書室ではない
場所でもできます。図書委員が手分けをしていろいろなところで「ブックトーク」をすれば、図書室に
来ない人にもしようかいできると思います。

白石さん

ぼくは「読書マラソンカード」に賛成です。ぼくは体育の時間にマラソンカードに何周走ったか記録す
ることで、目標にむかってがんばることができたという体験があります。これは、目標がはっきりしてい
る活動なので、読書をしようという気持ちになると思います。

秋本さん

ぼくは「ブックトーク」に賛成です。それは、いろいろな種類の本を合わせてしようかいできるからで
す。例えば、【資料3】を見ると、ほかの学年に比べて、【ア】は、一、二年生に好きな人が多く、

【イ】は、五、六年生に好きな人が多いのが分かります。学年や人によって好みの本の種類はちがいます。
いろいろな種類の本を合わせてしようかいすれば、もっと多くの人に興味をもってもらえます。

冬川さん

ぼくは「読書マラソンカード」に反対です。本を読むたびに、ページを記録しなければなりません。
カードをもっていく必要もあります。それに、ページ数がふえていくと合計を計算できなくなるのでは
ないでしょうか。

赤木さん

ページの記録は、本の最後のページ数を書くようにすればそれほどむずかしくないとします。また、
図書館に置くなどカードを持って行かなくてもよい工夫をすればどうでしょう。合計の計算には図書室
に電卓をおいたり、図書委員が手伝ったりすれば、一、二年生でも計算できるのではないのでしょうか。

(話し合いは続く。)

問い一 ア、イ にはそれぞれ【資料3】の本の種類が入ります。どの本の種類が入るでしょうか。次の [] の中に書きましょう。

ア

イ

問い二 話し合いの中で、夏目さん、青野さん、黒井さんは、【資料4】を参考にして考えを発表しています。それぞれは【資料4】のあくのうち、どれを参考にしていますか。正しい組み合わせの番号を次の□の中に書きましょう。

- 1 夏目さん：キ 青野さん：エ 黒井さん：イ
 - 2 夏目さん：オ 青野さん：エ 黒井さん：カ
 - 3 夏目さん：キ 青野さん：ク 黒井さん：イ
 - 4 夏目さん：オ 青野さん：ウ 黒井さん：カ
-

問い三 みんなの意見を聞いた後で、記録係がノートに話し合いの様子を整理しました。

ねらい 全校のみんなにたくさん本をよんでもらおう

＜話し合いのまとめ＞

| ブックトーク | 読書マラソンカード | 活動のよい点 | 活動の問題点 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 本を見せながらくわしくしようか ・ 本のおもしろさがつたわる。 ・ いろいろな種類の本を合わせてしようか | <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚い本を借りている人や本を借りられない人にもはげみになる。 ・ 賞状をもらえる人がふえる。 ・ 目標がはっきりするので、読書をしようという気持ちになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本を読むたびにページを記録しなければならぬ。 ・ 借りるたびにカードをもっていかねばならぬ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ブックトークでしようか ・ すぐには借りることができない。 ・ 図書室に来なければ本をしようか |

次の [] 「読書マラソンカード」の問題点のうち、 [A] にはどんなことを書けばいいでしょうか。 [] の中に書きましょう。

問い四 話し合いの中で、賛成する案を強調するために、読書とはちがう自分の体験を入れて説明している人がいます。それはだれですか。次の [] に名前を書きましょう。

[] さん

また、読書とはちがう体験はどんなことですか。次の [] に書きましょう。

という体験。

問い五 話し合いの中であげられた「ブックトーク」の問題点のうち、「ブックトークは図書室に来てくれない人には、しょうかいできない」ことについて、どのような解決策を話していますか。話し合いの中から言葉をさがして、次の文章に当てはまるように書きましょう。

たしかに、図書室に来なければしょうかいできないという問題点があります。

しかし、

すれば、

できる

と思います。

問い六 もし、あなたが図書委員だったら、「読書マラソンカード」と、「ブックトーク」のどちらの案に賛成しますか。次にしめす条件を満たして【組み立て表】を参考にして意見文を書きましょう。

〈条件〉

- 三百四十字以上、四百字以内で書くこと。
- ※題名や氏名は書かずに一行目から書き始める。
- 「始め — 中(二つ) — 終わり」のまとまりで、四段落で書くこと。
- 「始め」には、あなたが賛成する案を書くこと。
- 「中」には、次のことを必ず書くこと。
 - ・ 二段落目には、あなたが選んだ案に賛成する理由を一つ書くこと。理由には、あなた自身の体験、または賛成する案を実行するとどうなるかの予想を加えて説明すること。
 - ・ 三段落目には、あなたが賛成する案の問題点を書き、その解決策やあなたの考えを書くこと。
- ※資料や話し合いの言葉を使って書いてもよい。
- 「終わり」には、賛成した案を選ぶとどんなことが達成されると思うか、ねらいとつなげながら書くこと。

【組み立て表】(例)

| 終わり (4段落) | 中 | | 始め (1段落) |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| | (3段落) | (2段落) | |
| このような理由から、マラソンカード案(またはブックトーク案)にする と、〜になると思います。 | たしかに、マラソンカード案(またはブックトーク案)には、〜という問題点があります。しかし、〜すれば、〜できると思います。 | (体験の場合)わたしは前に〜でした。 (予想の場合)もし〜すれば、きつと〜と思います。 | わたしは、読書マラソンカード案 (またはブックトーク案)に賛成です。 理由は、〜です。 |

